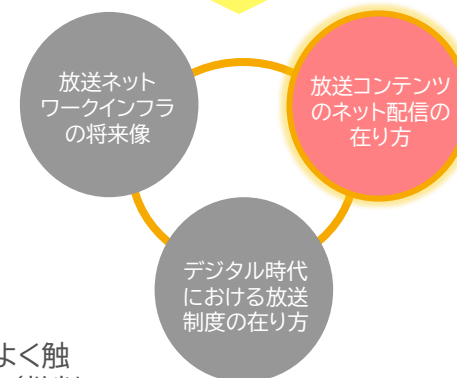


総務省「デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会」



● デジタル時代における放送の将来像と制度の在り方に関する取りまとめ(2022.8.5)

インターネットを含めて情報空間が放送以外にも広がる中、国民の「知る自由」を保障し、「社会の基本情報」の共有や多様な価値観に対する相互理解の促進といった社会基盤としての役割を果たすことで、健全な民主主義の発達に貢献し、情報空間全体におけるインフォメーション・ヘルス*を確保する観点から、放送の価値を放送同時配信等によりインターネット空間にも浸透させていくことがこれまで以上に重要。その価値の浸透を後押しする仕組みについて検討すべき。

*インフォメーション・ヘルス: 多様な情報にバランスよく触れることで、フェイクニュース等に対して一定の「免疫」(批判能力)を獲得している状態

公共放送ワーキンググループ

背景・目的

- ✓ 若い世代を中心に動画視聴スタイルが変化
 - ✓ インターネット上の誤った情報や偽情報への接触機会が増加
- 放送のみを必須業務とする現行制度の下では、今の情報空間で、公共放送が担ってきた多様で公平かつ信頼性のある「基本的な情報」の供給源としての役割を果たすことが困難

主な検討項目

- インターネット時代における公共放送の役割
- NHKのインターネット活用業務の在り方
- インターネット活用業務に関する民間放送事業者との協力の在り方
- インターネット活用業務の財源と受信料制度

小規模中継局等のブロードバンド等による代替に関する作業チーム

2022.9初会合～2023.6月頃とりまとめ予定で
11/24は、NHK、民放連、新聞協会に対するヒアリング